作成日：　2011 年 7 月 11 日
改訂日(V.4)：2025 年 8 月 29 日

安全データシート

１．化学品及び会社情報

化学品の名称：　日農ロロックス

会社名：　日本農薬株式会社
住　所：　〒104-8386 東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 8 号 京橋ＯＭビル
担当部門：　環境安全・品質保証部
TEL. 050-3490-3494
e-mail: kankyouanzen@nichino.co.jp
緊急連絡電話番号：(平日)　050-3490-3494（環境安全・品質保証部）
(休日、夜間)　04-2929-8961（ＡＬＳＯＫ）
推奨用途：　農薬(除草剤)
使用上の制限：　農薬登録以外の使用は不可
ＳＤＳ番号：　５４３－１２(Ｍ１１－１２)

２．危険有害性の要約（※）
３．組成及び成分情報（※）
４．応急措置（※）（★）
５．火災時の措置（※）
６．漏出時の措置（※）
７．取扱い及び保管上の注意（※）
８．ばく露防止及び保護措置（※）
９．物理的及び化学的性質（※）
１０．安定性及び反応性（※）
１１．有害性情報（※）
１２．環境影響情報（※）
１３．廃棄上の注意（※）
１４．輸送上の注意（※）
１５．適用法令（※）（★★）

（※）の項目に関する情報は、添付の安全データシート「丸和ロロックス」(丸和バイオケミカル株式会社)、2025 年 2 月 3 日改訂)をご参照ください。
（★）　４項のうち、吸入した場合、及び飲み込んだ場合の連絡先は医師になります。
（★★）１５項のうち、当社製品の農薬取締法に関する記載は以下となります。
農薬取締法　登録番号　第 22896 号

１６．その他の情報

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。

なお、次頁以降に添付された安全データシート（SDS）中の製品名や登録番号等が、弊社製品と異なる場合がございますが、弊社の製品名は本頁記載の通りとなります。
本製品に関するお問い合わせは、次頁以降の連絡先ではなく、本頁の連絡先までお願いいたします。
また、この頁と次頁以降を分離して使用することはご遠慮下さい。分離して使用された場合、当製品の SDS とは異なるものとなり、分離した SDS を使用したことより発生、起因した事故、不具合につきましては、弊社は一切の責任を負いかねます。

作成日 2016 年 10 月 5 日
改訂日 2025 年 2 月 3 日

安全データシート

1.【 化学品及び会社情報 】

製品名	**丸和ロロックス**
供給者の会社名称	丸和バイオケミカル株式会社
住所	東京都千代田区神田須田町 2-19-23
担当部門	開発本部 登録・環境グループ
電話番号 / FAX	Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323
推奨用途	除草剤
使用上の制限	農薬登録以外の使用は不可
整理番号	22895-06

2.【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類（分類 JIS）

健康有害性	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2B
	発がん性	区分 1A
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 2（血液系）
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 1
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報
眼刺激
発がんのおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による血液系の障害のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き 【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じんを吸入しないこと。
取扱後は手をよく洗うこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
気分が悪い時は医師の診察/手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。
漏出物を回収すること。

【保　　管】
施錠して保管すること。

【廃　　棄】
内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。
都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

3.【 組成及び成分情報 】

化学物質・混合物の区別　混合物
化学名又は一般名　リニュロン：3-(3,4-ジクロロフェニル)-1-メトキシ-1-メチル尿素

成分及び含有量		化審法 No.	安衛法 No.	CAS No.
＜有効成分＞				
リニュロン	50.0%	(3)-2193	4-(13)-44	330-55-2
＜その他＞				
鉱物質微粉、界面活性剤等	50.0%			
（結晶質シリカ	<2.5%）	(1)-548		14808-60-7
（非晶質シリカ(シリカゲル及び沈降シリカに限る。)	15.0%）	(1)-548		112926-00-8
（硫酸ナトリウム	1.2%）	(1)-501		7757-82-6

4.【 応急措置 】

吸入した場合　空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は医師/中毒情報センターに連絡する。
皮膚に付着した場合　直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐ/取り除く。皮膚を水で洗う。
眼に入った場合　水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受ける。
飲み込んだ場合　直ちに医師/中毒情報センターに連絡する。口をすすぐ。
被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。

5.【 火災時の措置 】

適切な消火剤　水噴霧、粉末消火薬剤
使ってはならない消火剤　棒状放水
火災時の特有の危険有害性　燃焼ガスには、一酸化炭素等のほか、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
特有の消火方法　消火作業は、風上から行う。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置　消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。

6.【 漏出時の措置 】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置　屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
多量の場合、人を安全に退避させる。
漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、マスク等を着用する。
環境に対する注意事項　流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材　漏出したものをすくいとり、又は掃き集めて紙袋又はドラム等に回収する。

7.【 取扱い及び保管上の注意 】

取扱い
技術的対策　取扱いは、換気のよい場所で行う。
屋外での取扱いは、できるだけ風上から作業する。
容器を転倒、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

	取扱う場合は、局所排気、又は全体換気の設備のある場所で取扱う。
安全取扱注意事項	みだりに粉じんが発生しないように取扱う。
接触回避	強酸または強塩基との接触を避ける。
保管	
安全な保管条件	直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管する。 食品や飲料から離して保管する。
安全な容器包装材料	製品の容器包装材料にて保管する。

8.【 ばく露防止及び保護措置 】

許容濃度等	
管理濃度	粉じん 3.0/(1.19Q+1)(mg/m^3) Q:遊離珪酸含有率(%)
日本産業衛生学会(2024 年版)	吸入性結晶質シリカ 0.03mg/m^3
ACGIH(2018 年版)	結晶質シリカ 0.025mg/m^3 (TLV-TWA)
設備対策	取扱いについてはできるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。 取扱場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	防じんマスク、簡易防じんマスク
手の保護具	保護手袋
眼、顔面の保護具	保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	保護服、保護長靴

9.【 物理的及び化学的性質 】

物理状態	固体
色	類白色
臭い	情報なし
融点/凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	情報なし
引火点	情報なし
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	6.9(20%懸濁液)(測定値)
動粘性率	情報なし
水溶解度	情報なし
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	見掛け比重 0.24(測定値)
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	45μm 以下

10.【 安定性及び反応性 】

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の温度及び保管条件では安定
危険有害反応可能性	高温で加熱すると分解する。
避けるべき条件	高熱源および火気への暴露
混触危険物質	強酸または強塩基
危険有害な分解生成物	情報なし

11.【 有害性情報 】

急性毒性(経口)	ラット LD_{50}:♂4833mg/kg、♀4060mg/kg(区分に該当しない) マウス LD_{50}:♂>5000mg/kg、♀6311mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(経皮)	ウサギ LD_{50}:>5000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(吸入)	情報が十分でない(分類できない)
皮膚腐食性/刺激性	モルモット:陰性～軽度の刺激性が認められたが、分類基準に該当しない(区分に該当しない)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	ウサギ:極軽度の結膜刺激性を示したため、区分 2B とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性　情報が十分でない(分類できない) 皮膚感作性　モルモット:感作性なし(区分に該当しない)
生殖細胞変異原性	情報が十分でない(分類できない)
発がん性	本製品は鉱物質微粉として天然の鉱物を含み、その中に区分 1A の石英(結晶質シリカ)を0.1%以上含むと考えられるため、区分 1A とした。
生殖毒性	情報が十分でない(分類できない)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	情報が十分でない(分類できない)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	本製品は区分 2(血液系)の成分を 10%以上含むため、区分 2(血液系)とした。
誤えん有害性	情報が十分でない(分類できない)

12.【 環境影響情報 】

生態毒性	
魚類	コイ　LC_{50}(96h):38mg/L
甲殻類	オオミジンコ　EC_{50}(48h):6.0mg/L
藻類	緑藻　EbC_{50}(72h):0.032mg/L
	短期(急性):藻類の EbC_{50} 値より、区分 1 とした。
	長期(慢性):急性区分 1 であり、急速分解性および生物蓄積性が不明であるため、区分 1 とした。
残留性/分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報が十分でない(分類できない)

13.【 廃棄上の注意 】

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。 都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

14.【 輸送上の注意 】

国連番号	3077
品名(国連輸送名)	環境有害物質(固体)(リニュロン)
国連分類	9(有害性物質)
容器等級	Ⅲ
海洋汚染物質	該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。
国内規制がある場合の規制情報	労働安全衛生法、船舶安全法、航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	171

15.【 適用法令 】

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

農薬取締法	第 22895 号
化学物質排出把握管理促進法（化管法）	リニュロン（第 1 種）
労働安全衛生法	第 57 条 表示対象物、第 57 条の 2 通知対象物 リニュロン（政令番号 249-3） 結晶質シリカ（政令番号 165-2） 硫酸ナトリウム（令和 7 年 4 月 1 日以降） 非晶質シリカ（シリカゲル及び沈降シリカに限る。）（令和 8 年 4 月 1 日以降） 労働安全衛生規則第577条の2 がん原性物質 結晶質シリカ
毒物及び劇物取締法	該当なし
消防法	該当なし

16.【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】

緊急連絡先：03-5962-9731（9時～17時 土日祝を除く）

公益財団法人 日本中毒情報センター（事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限る）

中毒110番 365日24時間対応

	一般市民専用電話 （情報料無料）	医療機関専用有料電話 （1件2000円）
大阪	072-727-2499	072-726-9923
つくば	029-852-9999	029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用された場合も、情報料1件につき2,000円を徴収します。

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常の取扱いを対象としております。